

採 択 年 度

2016 年度

氏 名

笹原 朋代

所 属 機 関

筑波大学医学医療系

課 題 名

エンド・オブ・ライフ・ケアの看護実践を測定するための尺度の開発

助 成 額

500,000 円

研究報告概要

本研究の目的は、本教育プログラムの効果を検証するために、エンド・オブ・ライフ・ケアに関する看護実践を測定するための尺度を開発することである。

わが国では、米国で開発されたエンド・オブ・ライフ・ケアの看護師教育プログラムである ELNEC の日本版 (ELNEC-J) が作成され、広く普及してきている。そして、エンド・オブ・ライフ・ケアに関する知識・態度を測定するための評価尺度が開発され、RCT およびコホート調査が行われている。その結果、本教育プログラム受講者の知識・態度は向上し、6 ヶ月持続したことが明らかとなっている。本教育プログラムの効果をより正確に把握するためには、受講者の看護実践が変化したかどうかを明らかにする必要がある。

まず、私たちの研究グループが行った本教育プログラム受講後のエンド・オブ・ライフ・ケアに関する看護実践の変化に関する質的調査およびエキスパートパネルにより、エンド・オブ・ライフ・ケアに関する看護実践を測定するための調査項目 (案) を約 200 項目作成する。プレテストにより調査項目の表現や回答のしやすさ等を確認後、がん看護に携わる看護師約 1600 名を対象に横断的質問紙調査を実施する。分析は、探索的因子分析、Multitrait Scaling 分析により構成概念妥当性を確認し、尺度化成功率を算出する。さらに、既知集団妥当性を検討する。これらのプロセスを通して、最終的に 100 項目に精選する予定である。

本研究は、筑波大学医学医療系医の倫理委員会による承認後に行う。調査は無記名にて行い、対象者には書面にて個人情報保護やプライバシー保護等について説明する。

本調査により、エンド・オブ・ライフ・ケアの看護実践を測定する尺度が開発されれば、本教育プログラム受講者の行動レベルでの変化を明らかにすることが可能となる。これにより本教育プログラムの具体的な有用性が明らかとなり、本教育プログラムの普及が促進される。